

作成日 平成 23 年 5 月 19 日  
改訂日 令和 4 年 5 月 16 日

## 安全データシート

### 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	ライトクリスタル L-S4V
製品整理番号	BA121
供給者の会社名称	株式会社ウォーターエージェンシー
住 所	162-0813 東京都新宿区東五軒町 3 番 25 号
担当部門	ケミカルサービス事業本部
TEL	03-3267-4073
FAX	03-3267-4106
緊急連絡電話番号	同 上
推奨用途および使用上の制限	工業用消臭剤

### 2. 危険有害性の要約

#### 化学品の GHS 分類

物理化学的危険性	全ての項目は、区分に該当しない又は分類できないである。	
健康に対する有害性	急性毒性（経口）	区分に該当しない
	急性毒性（経皮）	分類できない
	急性毒性（吸入:気体）	区分に該当しない
	急性毒性（吸入:蒸気）	分類できない
	急性毒性（吸入:粉塵）	区分に該当しない
	急性毒性（吸入:ミスト）	分類できない
	皮膚腐食性/刺激性	区分2
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2A
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	分類できない
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	分類できない
	誤えん有害性	分類できない
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期(急性)	分類できない
	水生環境有害性 長期(慢性)	分類できない
	オゾン層への有害性	分類できない

#### GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語  
危険有害性情報

警告  
皮膚刺激  
強い眼刺激

注意書き  
<安全対策>

- ・全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
- ・取扱い後は手をよく洗うこと。

<応急措置>

- ・吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・皮膚に付着した場合:多量の水と石鹸で洗うこと。皮膚刺激が生じた場合、医師の診察、手当てを受けること。汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

- ・眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合、医師の診察、手当てを受けること。
- ・飲み込んだ場合:口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。気分が悪い時は、医師の診察、手当てを受けること。
- ・ばく露又はばく露の懸念がある場合:医師の診察、手当てを受けること。
- ・日光から遮断し、換気の良い場所で保管すること。
- ・内容物及び容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託して廃棄すること。

<保管>  
<廃棄>

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	混合物	
化学名又は一般名	①有機酸塩	②アルコールアミン
	③カチオン界面活性剤	④有機溶剤
	⑤香料成分	⑥ジフェニルエーテル
	⑦消泡剤	⑧グリオキサール
	⑨N,N-ジメチルアルカン-1-アミン=オキッド(C=10,12,14,16,18,直鎖型)	
	⑩水	
化学物質を特定できる一般的な番号	①CAS No. 有り	②CAS No. 有り
	③CAS No. 有り	④CAS No. 有り
	⑤CAS No. 有り	⑥CAS No. 101-84-8
	⑦CAS No. 有り	⑧CAS No. 107-22-2
	⑨CAS No. 2605-79-0	⑩CAS No. 7732-18-5
化学式	①非開示	②非開示
	③非開示	④非開示
	⑤非開示	⑥C <sub>12</sub> H <sub>10</sub> O
	⑦非開示	⑧非開示
	⑨非開示	⑩H <sub>2</sub> O
成分及び濃度又は濃度範囲	①有機酸塩 非開示	②アルコールアミン 非開示
	③カチオン界面活性剤 非開示	④有機溶剤 非開示
	⑤香料成分 非開示	⑥ジフェニルエーテル 0.1%未満
	⑦消泡剤 非開示	⑧グリオキサール 0.1%未満
	⑨N,N-ジメチルアルカン-1-アミン=オキッド(C=10,12,14,16,18,直鎖型) 0.1%未満	
	⑩水 非開示	
官報公示整理番号 (化審法)	①化審法番号有り	②化審法番号有り
	③化審法番号有り	④化審法番号有り
	⑤化審法番号有り	⑥(3)-650
	⑦化審法番号有り	⑧(2)-510
	⑨(2)-198	⑩ —
(安衛法)	①公表化学物質	②公表化学物質
	③公表化学物質	④公表化学物質
	⑤公表化学物質	⑥公表化学物質
	⑦公表化学物質	⑧既存化学物質
	⑨既存化学物質	⑩ —

### 4. 応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
皮膚に付着した場合	多量の水と石鹸で洗うこと。皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
眼に入った場合	水で15分以上注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は必ず医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合 急性症状及び遅発性症状並び に最も重要な兆候及び症状	口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。気分が悪い時は、医師に連絡すること。 知見なし。

応急措置をする者の保護に必要な注意事項  
 特になし。

医師に対する特別な注意事項  
 特になし。

## 5. 火災時の措置

適切な消火剤  
 粉末消火剤、二酸化炭素、水噴霧、砂、一般の泡消火剤。

使ってはならない消火剤  
 特になし。

火災時の特有の危険有害性  
 知見なし。

特有の消火方法  
 風上から消火作業を行う。周辺火災の場合は、移動可能な容器は速やかに安全な場所へ移す。初期消火には粉末消火剤、水を使用する。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置  
 消火作業の際は、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置  
 作業者は適切な保護具(『8. ばく露防止及び保護措置』の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。風上から作業し、風下の人を退避させる。

環境に対する注意事項  
 河川、下水等の公共用水域に流さない処置を行うこと。

封じ込め及び浄化の方法及び機材  
 危険でなければ漏れを止める。  
 少量の場合、吸着剤(オガクズ・土・砂・ウエス等)で吸着させ取り除く。取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取る。  
 多量の場合、盛り土で囲って流出を防止し、ポンプで汲み取る。物質を吸い込み又は掃き取って廃棄用容器に入れること。

二次災害の防止策  
 知見なし。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い  
 技術的対策  
 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。  
 取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。

局所排気・全体換気  
 安全取扱注意事項  
 必要に応じて全体換気、局所排気を行う。  
 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
 ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。  
 飲み込みを避けること。  
 眼、皮膚との接触を避けること。

接触回避  
 衛生対策  
 『10. 安定性及び反応性』を参照。  
 取扱い後は手、顔等をよく洗い、うがいをする。

保管  
 安全な保管条件  
 『10. 安定性及び反応性』を参照。  
 酸化剤から離して保管する。  
 容器を密閉して換気の良い冷所で保管すること。

安全な容器包装材料  
 消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。  
 ポリエチレン等の樹脂製容器を使用する。

## 8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度  
 設定されていない。

許容濃度  
 日本産業衛生学会(2014年度版):設定されていない。  
 ACGIH(2013年度版) :TWA 1ppm, STEL 2ppm (シフェニルエーテル)

設備対策  
 本製品を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

保護具  
 手の保護具:合成ゴム手袋又は、合成樹脂(ポリエチ)手袋を着用する。  
 眼、顔面の保護具:保護めがね、ゴーグル型保護眼鏡を着用する。  
 皮膚及び身体の保護具:適切な保護衣を着用する。必要に応じて個人用の顔面用保護具を使用する。

## 9. 物理的及び化学的性質

物理状態  
 液体

色  
 淡黄色

臭い  
 香料臭

融点／凝固点	データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲	約 100℃
可燃性	データなし
爆発下限界及び爆発上限界／ 可燃限界	データなし
引火点	データなし
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	<b>6.8～8.8</b>
動粘性率	データなし
溶解度	水に可溶
n-オクタノール／水分配係数(log 値)	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び／又は相対密度	<b>1.00～1.10 (20/4℃)</b>
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

## 10. 安定性及び反応性

反応性	知見なし。
化学的安定性	通常の使用条件及び保存条件では安定である。
危険有害反応可能性	通常の使用条件及び保存条件では危険有害な反応は起こらない。
避けるべき条件	知見なし。
混触危険物質	酸化剤。
危険有害な分解生成物	知見なし。

## 11. 有害性情報

本製品としてのデータはないので、各成分のデータを基に分類分けを行う。

急性毒性	経口:混合物の分類結果は区分に該当しないとなる。 経皮:混合物の分類結果は区分に該当しないとなる。 吸入(気体):区分に該当しない。 吸入(蒸気):分類できない。 吸入(粉塵):区分に該当しない。 吸入(ミスト):分類できない。
皮膚腐食性／刺激性	混合物の分類結果は区分2となる。
眼に対する重篤な損傷性 ／眼刺激性	混合物の分類結果は区分2Aとなる。
呼吸器感受性又は皮膚感受性	呼吸器感受性:混合物の分類結果は分類できないとなる。 皮膚感受性:混合物の分類結果は分類できないとなる。
生殖細胞変異原性	混合物の分類結果は分類できないとなる。
発がん性	混合物の分類結果は分類できないとなる。
生殖毒性	混合物の分類結果は分類できないとなる。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	混合物の分類結果は分類できないとなる。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	混合物の分類結果は分類できないとなる。
誤えん有害性	動粘性係数が不明であるため分類できないとした。

## 12. 環境影響情報

本製品としてのデータはないので、各成分のデータを基に分類分けを行う。

生態毒性	
水生環境有害性 短期(急性)	混合物の分類結果は分類できないとなる。
水生環境有害性 長期(慢性)	混合物の分類結果は分類できないとなる。
残留性・分解性	混合物としてのデータなし。
生体蓄積性	混合物としてのデータなし。
土壌中の移動性	混合物としてのデータなし。
オゾン層への有害性	データなし。

## 13. 廃棄上の注意

化学品(残余廃棄物)、当該化学品が付着している汚染容器及び包装の安全で、かつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこに委託して処理する。  
容器は清浄してリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

## 14. 輸送上の注意

## 国際規制

海上規制情報

非該当

航空規制情報

非該当

## 国内規制

陸上規制情報

非該当

海上規制情報

非該当

航空規制情報

非該当

輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策

直射日光、水漏れ、湿気、火気、熱源を避け、容器の破損、漏れのない様に積み込む。

粗暴に取り扱わない。

荷崩れ、落下などに注意する。容器が破損しないように注意する。

容器を投げない、落さないこと。容器の上に乗らないこと。

輸送作業は取扱い及び保管上の注意事項に留意して行う。

緊急時対応措置指針

なし

## 15. 適用法令

労働安全衛生法

非該当

毒物及び劇物取締法

非該当

化学物質排出把握管理促進法

非該当

化審法

非該当

消防法

非該当

## 16. その他の情報

## ・記載内容の取扱い

全ての資料や文献を調査した訳ではないため、情報洩れがあるかも知れません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じることがあります。

重要な決定等にご利用される場合は、試験によって確かめられる事をお薦めします。なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。また、注意事項は、推奨用途上の通常的な取扱いを対象としたものなので、推奨用途から外れる特殊な取扱いの場合には、この点にご配慮をお願いします。

## ・問合せ先

担当部門 ケミカルサービス事業本部

電話番号 03-3267-4073 FAX 番号 03-3267-4106